

# かさかけ 公民館だより

編集  
笠懸公民館報編集協力員会  
みどり市笠懸公民館  
発行  
みどり市笠懸公民館

〒379-2311  
みどり市笠懸町阿左美1581-1  
電話：0277-76-2211  
FAX：0277-76-2836  
Eメール：kouminkan  
@city.midori.gunma.jp



▲大勢の受講者で埋まった会場

## 学ぶ気持ちはいつまでも

### 令和元年度高齢者大学開講

令和元年度笠懸地域高齢者大学が開講。開講式と第1講が7月23日(火)笠懸公民館交流ホールで開催されました(主催：笠懸公民館後援：笠老連、みどり市社協)

当日は猛暑の中、182人のシニアが参加、郷土の歴史を学びました。第1回講座の開講にあたり

り、主催者は開講式を行い、本年度は、全6講座と11月に視察研修会が実施されることなど、簡単なガイダンスがありました。

続いて開かれた第1講では、元岩宿文化資料館学芸員國井洋子さんを講師に『郷土の歴史を学ぶく地名の由来と郷土の民話』をテーマに学習しました。

第1部では、渡良瀬川の旧流路が形成した大間々扇状地の原野、現みどり市南部から太田市北西部を占めていた台地で、狩りの途中、源頼朝が当時武家の間で流行していた『笠懸(注)を余興として行った』という伝承から、この地が『笠懸野』と呼ばれていたこと。明治22年の4村合併にあたり、鹿久宮・西鹿田・阿左美それぞれ的主張で、決まらない新村名を『笠懸村』として統一したことなど、笠懸野

にまつわるエピソードが紹介されました。

第2部では『岡上景能とあかがね街道』について説明がありました。笠懸野用水を開削したとされる岡上景能は、寛文2(1662)年この地域の代官として赴任。笠懸野用水を開削したとされます。しかし、寛文8(1668)年足尾銅山の銅山奉行へ抜擢され、銅山奉行も兼務することになりました。

足尾銅山の銅生産の向上と輸送の効率化を図る景能は、笠懸野の原野を縦断するルートを開き、現在の太田市大原町に『本町宿』を整備しました。これが、大間々から笠懸野を南に下り、世良田・平塚の船着き場を最短で結び岡上景能の新あかがね街道です。悲劇の人との印象のある景能には明確でない部分もありますが、私達に今日が



▲講師の國井洋子先生

## 《お知らせ》

### 第121回いこいの広場♪

日時 9月22日(日)午後2時~  
会場 笠懸公民館 交流ホール  
出演 笠懸野合唱団  
カフェアンサンブル

あるのは、岡上景能のお陰でもあります。後世に長く伝えたいものです。  
(注) 笠懸は、中世に武家の間で行われた、馬上からの射を競い合う騎射物。

# 今年も大人気!!

## 夏休み青少年教室

### 上手にできた！ 絵画教室

待ちに待った夏休みがはじまった7月20日(土)、21日(日)、小学生を対象とした「絵画教室」が笠懸公民館美術工芸室で行われました。今年も大人気で、午前と午後に分かれての開催となりました。参加者は合わせて48人です。



▲ 講師の桑原先生のアドバイスを聞いて

講師は富弘美術館学芸員の桑原みさ子先生です。

絵画教室は、教えられたことだけでなく、自分の目で見て、自分で考え、自分で一つの世界を作り上げるといふ過程を学ぶとともに、異年齢間の児童が交流する機会を提供することを目的として開催されています。

初日は、今日の目標である「下書きを完成させよう」です。子どもたちは友だち同士で話し合ったり、自分で考えながら真剣に下書きを始めました。

参加した笠小3年生の女の子は「毎年、絵画教室に参加するのが楽しいです」と笑顔で話していました。

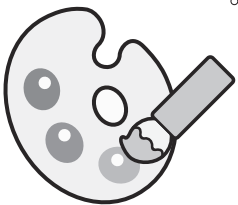
2日目は前日に描いた昆虫、花、乗り物などの下書きに色を付けていきます。講師は、色の混ぜ方、塗り方、濃淡のつけ方などについて一人ひとり丁寧にアドバイスしていきます。



▲ みんなで相談しながら 完成間近

絵具の混ぜ方で様々な色があらわれます。子どもたちは、自分で作ったオリジナルの色を下書きの絵に丁寧に重ねていき、完成させていきました。

2日間の教室で、思い思いの作品ができあがり、満足感に満ちた顔がいくつもありました。



### 見えた！ おもしろ科学教室

8月3日(土)「潜望鏡を作ろう!」と題して、おもしろ科学教室が笠懸公民館美術工芸室で開催されました。

参加者は37人(小学生23人、親子での参加も見られ、会場はびっしりでした。

講師は、群馬県生涯学習センター・サイエンスインストラクターの会の梅沢隆一さん、石井一敏さんです。

この、おもしろ科学教室は、子どもたちの「科学する心」を育むとともに



▲ 講師の説明を聞いて組み立て

に青少年の学校外活動の充実を図るための体験活動を行うことを目的としています。

はじめに、「潜望鏡は、光の反射を利用して見えるもの」と説明があり、組み立てに取り掛かりました。

片面が真っ黒の工作用紙に、あらかじめ設計図が描いてあり、線に沿って切っていきます。切り終わると山折り、谷折りをして形を整えていきます。鏡の代わりとなるミラーシートを貼る工程では、講師から「ミラーシートの貼り方が出来映えを左右します」と注意していました。

組み立てが終了すると本体に絵を描いたり、色を塗ったりと思いに任せて仕上げていきました。

参加した子どもからは「線に沿って切るのがむずかしかった」、「むずかしかったけど組み立てるのが楽しかった」などの声が聞こえてきました。

潜望鏡を覗くと  
“何が見えたのかなあ”



▲ 大きな笹竹の前で記念撮影

令和元年度「お母さんと一緒教室」が、7月3日(水)開講しました。この教室は、子育てに励むパパママの応援として、2、3歳児を対象に公民館で楽しく活動しながら地域で仲間をつくりましょうという趣旨で行われています。講師は、毎年お世話にな

# 短冊に願いを込めて!

## お母さんと一緒教室

っている保育士の根岸恵美子先生です。

年間計画(18回)は、受講生のお母さんたちが企画準備をします。

今回は開講式に引き続き、「七夕かざり」です。ごどものお部屋で七夕飾り作りをしました。色を塗ったり、はさみを使ったりの作業もあり、お母さんに手伝ってもらい一生懸命切っていました。ロビーに用意された大きな笹竹に飾りや短冊を結び付けてできあがり。短冊には、かわいらしいお願いが書かれていました。

今年度は、参加親子が7組と少なめです。申し込みが間に合わなかった方やお父さん、またはおばあちゃんとも参加は大丈夫のことです。参加してみたい方は笠懸公民館まで問い合わせしてみてください。楽しい企画がいっぱいです。

# 流れるメロディに酔う

## ういっこの広場

### ●第118回

笠懸公民館ロビーで、カフェアンサンブルのコンサートが行われました。メンバーは、フルート、サクソフス、ギター、歌担当の男女6人です。来場者は、楽器それぞれの独奏、フルート二重奏と三重奏、他の楽器との合同演奏などを楽しんでいました。



▲カフェアンサンブルによる演奏

歌の独唱では、東町花輪出身で「つきごとかめ」「花咲爺さん」の作詞で知られている石原和三郎の上野唱歌が披露されました。この

歌は群馬の様子を歌にしたものです。その中から、みどり市近郊の部分が歌われました。その他、「サンマルティ

### ●第119回

笠懸公民館交流ホールで、ピアチェルアンサンブルによる「マンドリンコンサート」が行われ、約120人の来場者がありました。

ピアチェルアンサンブルは、みどり市及び近郊に住む男女15人で構成されています。

メンバーの中には「楽譜も読めなかったのですが、このコンサートのために3か月間1曲だけ練習して参加しました。」という人もいました。

マンドリンの独奏や、マンドリンとギターの合奏でクラシック・歌謡曲・ポピュラーなど色々な曲が演奏されました。懐メロの「東



▲ピアチェルアンサンブルによる演奏

「二のソナタ」「世界に一つだけの花」などクラシックからポピュラーまで幅広く演奏されました。メンバーの中には、喫茶「ペちゃくちゃ」ができた時からサポートしてきた人もいて、「今年で20周年になる記念に演奏できて嬉しい」と喜んでいました。京のバスガール」「リンゴの唄」などを会場の人達と一緒に歌い、楽しいひとときを過ごしていました。

暑さには負けず

大盛況!!

各区納涼祭



1区  
7月13日



2区  
7月27日



3区  
7月28日



4区  
7月13日



5区  
7月13日





6区  
8月4日



今年も納涼祭が



7区  
7月28日



7月13日(土)から8月4日(日)



8区  
7月27日



9区  
7月27日



までの間で開催されました。



10区  
8月3日



# 思いを心のまま伝える

## 少年の主張

少年の主張第14回みどり市大会が、6月29日(土)、笠懸公民館交流ホールで開催され、市内の中学校5校から推薦を受けた各校2人の代表(10人)が、考えを述べました。

各中学校では、生徒達が生活の中で気づいたり、考えたりしていることを授業の一環として作文や論文にまとめ、『少年の主張』として毎年チャレンジ。みどり市大会の最優秀者2人が東毛地区大会へ出場します。本年は『言葉に思いを』をテーマに主張した大間々中学校2年生の新井莉緒さんと、『一步、踏み出す』と題し主張した笠懸中学校3年生 阪元美空さんが最優秀賞に選出されました。新井さんは、母の日のプレゼントを「ありがとう」と嬉しそうに受け取るお母さんの一言をきっかけに、人が人に意思を伝えることについて考えました。思考を繰り返す中、伝え

ることの難しさに気づいた新井さんは周りの人たちと対話を続け、先生の指導を受ける中、コミュニケーションとは言葉を交わす表面的なものではなく自らの内面(思い)を伝えることであると理解。『言葉に思い』を込めることが意思伝達の要であると結論付けました。一方、阪元さんは「海外派遣事業を利用し、オーストラリアへホームステイした時のカルチャーショックをきっかけにオーストラリアに抱いていた思い込みが消失し、理解が様変わりした」と体験を述べました。また、「多くの異質の価値観を持つ人との対話は、思い込みに気づき、視野を広げることができると述べ、『一步、踏み出す』ことの重要性を主張しました。入選者8人は、惜しくも賞を逸したとはいえ、優秀者2人と、正に同等と言える発表内容に感じました。

笠懸公民館主催 みどり市市民講座 ぐんま県民カレッジ連携講座

### 『知識を身に付け、智慧を育む』

令和元年度市民講座は、様々な分野における「知識や技術」を身につけるための学習の場を提供します。

受講者募集中



区分	日程・会場	内 容	【応募条件】
第1講	10月12日(土) 10時00分～ 11時30分 笠懸公民館 交流ホール	「流鏑馬と郷土の歴史」 笠懸の武技や、町の由来など郷土の歴史を学びます。 ※ひまわり畑での笠懸の武技(衣服を整え、武者行列)への参加もできます。【体験参加先着10人】 講師 笠懸保存会 新井 巖雄 氏	◇ 資 格 みどり市在住・在勤・在学の方。 ◇ 募集人数 各講座とも100人(先着順) ※第2講はバスの都合上、25人(先着順)です。 ◇ 申込方法 電話または笠懸公民館窓口にて申し込み。 ※申込時に、受講希望の講座・住所・氏名・電話番号・年代をお知らせください。 ※申込受付時間 午前9時～午後5時(月曜休館)
第2講	11月15日(金) 13時00分 出発 17時00分(帰着予定) 笠懸公民館 集合	「車の自動運転技術の未来」 これからの高齢化社会を見据えて、車の自動運転技術研究の現状と見通しについて学習します。 【研修場所】群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター ※研修場所へは、バスで移動します。	◇ 申込期間 9月3日(火)から各講座の一週間前まで ◇ 参加費 無料 ◇ その他 第1講: 受講者で、武者行列への参加希望者は、申込時にお伝えください。 第3講: 託児所を設置しますので、お子様連れでの受講が可能です。
第3講	11月30日(土) 14時00分～ 16時00分 笠懸公民館 交流ホール	「こどもの感染症について学ぼう」 こどもが大人になるまでにかかる感染症は数え切れないくらいあります。主な感染症の症状、対策、予防接種等を学びます。 ※当日は、託児所を設置します。 講師 桐生厚生総合病院 小児科部長 大木 康史 氏	
第4講	12月5日(木) 19時00分～ 21時00分 笠懸公民館 交流ホール	「みどり市の災害の可能性と危険地域」 みどり市ハザードマップの見方や活用方法、みどり市における災害の可能性や危険地域など、防災全般について学習します。 講師 群馬大学大学院理工学府 教授 金井 昌信 氏	
第5講	3月1日(日) 14時00分～ 16時00分 笠懸公民館 交流ホール	「音楽を通しての人生の貯蓄」 みどり市出身で、作編曲家(オルガン奏者)として国内外を問わず広く音楽活動。音楽を通しての体験談、子どもたちへのメッセージを語ります。 講師 株式会社エンドリズム代表取締役 金子 勇人 氏	

【問合せ・申込先】

笠懸公民館 0277-76-2211

## こえの ひろば

このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。(しめきり毎月10日)

### お邪魔しま〜す♪ サークル 紹介 ⑳



今回お邪魔したのはフラダンスのサークル「カブア・フラ」です。

昨年10月に発足、会員の半数は初心者とのこと。健康と若さを保つために、姿勢よく雰囲気大切に

います。

フラダンス用のスカートをはき、おしゃれな髪飾りを付け優雅に踊り始めると、一気に南国ムードに♪

会員大募集!!

お試しもどうぞ!!

代表：吉井実花さん  
連絡先：090・5444・0971

活動日：第1・2・3の  
木曜日  
午後7時から

市コッタ  
どりコロ  
みマスカ  
キャラクター



みどモス

会員数：7人(30〜60歳代)  
会費：2,000円/月



▲カブア・フラのみなさん

## 投 稿

### 今月の一首③ 風鈴

ながつき  
九月の その初雁の  
使ひにも  
思ふ心は 聞こえ来ぬかも  
(8・一六一四)

《訳》九月の、あの初雁の使ひによつても、(あなた)の) 思つてくださるお気持ちか聞こえて来ないかなあ。

《解説》「初雁の使ひ」とは、前漢の武帝蘇武が匈奴(紀元前後、モンゴル地方に住み漢民族を脅かした遊牧騎馬民族)に使いして捕らわれの身となつた時、雁の足に手紙を付けて故国に便りをしたといつ、「雁信」の故事(『漢書』)によるものです。

このような歌の詠みぶりからは、当時詩人の間で『漢

書』の故事が共有されていたことがわかります。万葉集を読んでいると、その教養の広さと深さには、ため息がでます。

『万葉集一日一首』  
花井しおり編  
(致知出版社刊)より



## 四季の会 七月句会

たま運送と名付け出勤夏深し  
猫の数かぞへし眠る夜の秋  
祭終へ塵拾ひせし夢の跡  
カラオケも歌ひ放題船料理  
秋を待つ母も七十路クラス会  
落し文妻の面影たぐり寄せ  
土用鰻終へし万来有り難き  
甲子園集ふ球児や夏茜  
八十路なか俳人現役よるの秋  
ギギと鳴く髪切虫よ孫の手に  
灸花噂話に耳をかす  
相棒の猫と分けあふ洗鯉  
夜話の妻の団扇や風やさし  
熱帯夜タオルはなせぬ寝ぐるし  
遠花火耳をそばだて傘寿こゆ  
内科医のやさしき問診秋近し  
雷を案じつ野外コンサート  
藍浴衣はかた帯締め夜の町  
気に入りの妻の団扇を手みやげに  
にはか雨葉陰に隠る夏の蝶  
郷里より午前に届く冷蔵便  
冷房を二匹の犬に出勤す  
ガラス戸に影絵の如し守宮はふ  
方丈の単の衣山の寺  
大樹咲く寺の門前さるすべり  
暑氣払ひ全員一致酒の宴  
四阿に座して眺むるのふぜん花  
わくら葉や未だ命のある如し  
担ぎ手も少なくなりし神輿かな  
玄関のガラス戸で鳴く雨蛙  
花蓮のりあひ舟の込み合ひて  
故郷の棚田にひびく大花火  
浜風に流るる煙大花火

- |   |    |   |    |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |    |    |    |    |    |    |    |   |   |
|---|----|---|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 金 | 宇野 | 冠 | 金井 | 童 | 石原 | 真下 | 村田 | 金井 | 新羅 | 遠藤 | 村田 | 富田 | 金井 | 富士 | 横倉 | 小比 | 須田 | 徳田 | 糸井 | 今井 | 糸井 | 久保 | 楮沢 | 吉田 | 韓 | 小林 | 多田 | 越塚 | 津久 | 川岸 | 東宮 | 佐藤 |   |   |
| 光 | 勘  | 二 | 光  | 鳥 | 山  | 小  | 漢  | 光  | 勝  | 紅  | 青  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山 | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山  | 山 | 山 |
| 月 | 大  | 郎 | 順  | 海 | 条  | 町  | 江  | 海  | 龍  | 蘭  | 松  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和 | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和 | 和 |



投稿

テクテクお城歩き(5)

「鉢形城」歩遊人

埼玉県寄居町の鉢形城は日本100名城のひとつで、荒川の河岸段丘上にあります。

資料によれば鉢形城は山上杉氏の家臣長尾景春が1476年ころ築城したとあります。1590年、豊臣秀吉の小田原攻めの際、鉢形城は豊臣方の軍勢に囲まれました。

文献によれば、徳川の将本多忠勝は鉢形城の西南約1kmの車山(標高227m)



▲ 復元された四脚門

隣接して、鉢形城歴史館があり、北条氏に関する資料が展示されていますので立ち寄ることをお奨めします。

笠懸短歌サークル 七月例会

友よりの新ジャガ厨にあふるるをせつせと調理し集ひに持ちゆく  
露地茄子も晴天無くば成り悪く出荷も少なく気分は晴れず  
出雲なる荒神谷に出土せる銅剣まみゆ三五八本  
雑草の蔓延る庭に怯まずにのこぎり鎌で黙々と刈る  
みどり葉の中より抜くも緑にて芝の手入れにほとほと倦みぬ  
ちちんぷいちちんぷい撫でやりて兄の命を蘇らせたし

上村 征子  
橋内 文夫  
久保田茂子  
近藤ふさ子  
関口 定夫  
平山 勇



コラム 豆電球



「おひさまのニオイ」の正体

いい天気の日に布団や洗濯物を干しておくと、なんともいえない匂いがただよう。クチでは説明しづらいが、ほこりっぽいような、木綿のような「おひさまのニオイ」というヤツだが、あのニオイの正体はいったいなんだろう。

実は化粧品メーカーがニオイの正体を解明している。それによれば、天日に干した洗濯物からただよう心地よい香りの成分を解明し、人工的な合成に成功したそうだ。

綿のタオルを実際に快晴の屋外に干し、その後、タオルが放つ揮発性の成分を分析した結果、アルデヒドやアルコール、脂肪酸などの化学物質が、ひなたのニオイの主成分であると判明したようだ。ちなみに、この香りを嗅がせたところ、気分がよいときに出る脳波が表れ、快適で落ち着いた気分になるとわかったそうだ。だから、干したての布団で寝ると安眠できるのかもしれない。

しかしながら、環境の変化にともない屋外で干せないケースも少なくないようだ。自然のおひさまのニオイは理にかなっていないものなんだ。

ちよつと一息



内村鑑三の『代表的日本人』より4番目に紹介するのは「宮尊徳」です。江戸時代末期に「人心が退廃し、荒廃した村を立て直す」約600もの農村復興に力を入れ、その教えは「報徳」と呼ばれ、今も脈々と伝わっています。「報徳」とは、受けた徳や恩義にむくいること。また、農村復興に人々に3つのことを勧めました。「勤労」「分度」「推奨」です。勤労とは、徳に報いるために働くこと。分度とは、収入の範囲内で支出を定めること。推奨とは、勤労、分度によりたまったものを将来のために残したり、人のために役立たせたりすることです。

このようなことは、現代社会に通ずる教えだと思えます。今子どもたちにも何を教育するのか、非常に大きな問題となっています。

愛と勤勉、そして自助努力と誠心誠意、忍耐強くやるべきことに打ち込み、希望が生まれ、良い結果に繋がるのではないかと思います。 風鈴